

片岡球子

北海道生まれ。昭和から平成にかけて活躍した日本画家。女子美術専門学校(現・女子美術大学)を卒業後、横浜市の尋常高等小学校で教えながら創作を続ける。院展に二度入選するもその後何回も落選し、「落選の神様」と呼ばれた時期があった。また、型破りな構成、大胆な色使いから「ゲテモノ」と評された時期もあったが、著名な日本画家の小林古径から「あなたの絵はゲテモノに違いないが、ゲテモノと本物は紙一重の差だ。あなたの絵を絶対に変えてはいけない。」と励まされた。球子は自分の信念を貫いて創作を続け、従来の日本画にはない力強い表現を確立した。代表作は「富士山」シリーズ、戦国武将や江戸時代の浮世絵師を描いた「面構」シリーズなどがある。